

# 環境報告書 2004



# Contents

## 環境保全への取り組み

- 2 トップコミットメント
- 3 参天製薬について
- 5 参天製薬と環境との関わり
- 7 環境方針
- 8 2003年度の実績と今後の課題
- 9 省エネルギー・地球温暖化防止
- 10 廃棄物削減
- 11 化学物質の管理
- 12 環境法規制の遵守
- 13 環境マネジメント
- 15 環境会計
- 17 グリーン購入／環境教育・啓発

## サイトレポート

- 18 能登工場サイト
- 19 滋賀工場サイト
- 20 研究開発センターサイト
- 21 大阪工場サイト
- 22 製剤開発サイト・本社事務サイト・営業拠点サイト

## 社会に対する責任

- 23 コンプライアンス
- 24 従業員との関わり
- 25 製品開発
- 26 社会貢献活動・コミュニケーション

## 編集方針

●この報告書は、参天グループにおける環境保全活動ならびに社会的活動について、基本的な方針と2003年度の実績、さらには今後の計画を報告するものです。企業の社会的責任に関する説明責任を果たすという考えから、今年度より環境報告に社会性報告を加えました。また、グループ会社も含めた環境活動として参天物流の取り組みを紹介しています。さらに、サイトレポートを充実させ、幅広い読者層にわかりやすく情報をお伝えするよう心がけました。

●報告にあたっては、環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」およびGRI(Global Reporting Initiative)の「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」を参考にしています。

### [対象範囲]

参天製薬株式会社の全事業所、参天物流株式会社、株式会社クレールを対象としています。

### [対象期間]

2003年4月1日～2004年3月31日  
一部2004年4月以降の事象も含んでいます。

### [次回発行予定]

当社は、2002年以来、毎年環境報告書を発行しています。次回は2005年9月に発行する予定です。

## トップコミットメント

# 社会の持続的な発展に向けて、 参天製薬はどのような 貢献ができるのでしょうか？

世界の人々の目とからだの健康維持・増進に貢献すること、これが当社の最も大きな社会的役割です。

人々の健康を守ることは、社会の発展にとって非常に重要な要素です。当社は眼科とリウマチ／骨・関節疾患領域に特化して事業活動を行っており、眼科薬では、主に角結膜疾患、緑内障、アレルギーの治療に用いる医薬品を研究開発し医療現場にお届けしています。現在、日本に200万人以上の緑内障の患者さん、約70万人のリウマチ患者さんがいるといわれる中、有効な医薬品を提供し、人々の健康に貢献することは、社会の持続的な発展に向けた当社の使命であると考えています。

## 社会から信頼される企業であるために

生命に関わる事業を行う医薬品企業にとって、社会から信頼を受けることは、事業を継続し、発展していくために不可欠なことです。そのためには、高い倫理観に基づいて企業活動を行うとともに、高品質の医薬品を提供するという本業を通じてその信頼に応えることが必要であると考えます。

2000年6月に、「当社の製品に異物を混入する」と書かれた脅迫状が届くという事件がありましたが、この時、当社では店頭と並んだすべての製品を直ちに回収しました。これにより大きな損失が出ましたが、社会からの信頼に応えるためにはそうすることが最善だと考えましたし、現在もその考えは変わりません。利益を度外視しても守るべきものは守る。製品の安全性を確保することは医薬品企業としての責務であると考えています。

この姿勢を忘れず、全従業員が共通の高い倫理観を持って事業活動を行うことができるよう、2003年9月には「参天企業倫理綱領」を改定し全従業員に配布するとともに、社外相談窓口を設けるなどコンプライアンス推進体制の整備を行いました。

## 美しい地球を次世代に

地球温暖化防止対策や産業廃棄物処理などの環境問題は、産業分野を問わず企業活動にとって重要なテーマで、環境問題解決への貢献は企業の社会的責任と考えています。当社のエネルギー使用量の約8割は、製造時によるものですから、工場の環境活動に注力することが必要であると考え、国内すべての工場でISO14001の認証を取得するとともに本社と奈良研究開発センターにソージェネレーション設備を導入するなど、省エネルギーに努めています。2003年度は目標をほぼ計画どおりに達成することができました。今後は2006年度達成を目標に工場からの廃棄物を限りなくゼロに近づけることなどに力を入れていきたいと考えています。

当社はこれからも、健康を願う多くの人々に貢献することを通して豊かな社会の実現に寄与するべく、「何のために、誰のために薬を作っているのか？」を常に問いかけながら、高い志を持って取り組みを進めていきたいと考えています。

環境報告書の発行も3年目となりました。本年度は環境の取り組みに加え、倫理や労働安全についての当社の考え方も記載しています。この報告書を通して当社の活動をご理解いただくとともに、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。



代表取締役社長

森田隆和



# 参天製薬について

**基本理念** 参天製薬は、「天機に参与する」※という基本理念に基づき、目をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、それにより参天製薬ならではの知恵と組織的能力を培い、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会への貢献を果たしてまいります。

※中国の古典『四書五経』を原典としており、聖人が「天」すなわち万物の秩序・原理と、「地」すなわち人間社会の調和を助けることを意味しています。

## 国内トップシェアを誇る医療用眼科薬



売上の約80%を占める医療用眼科薬は、幅広い治療領域の品揃えにより、マーケットリーダーの地位を確保。特に感染症と角膜疾患領域で圧倒的な市場シェアを誇ります。

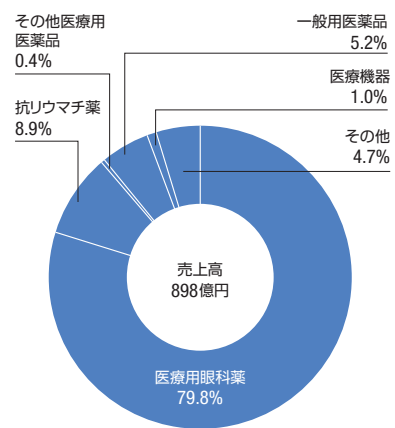
眼科薬に次ぐ参天製薬の柱が抗リウマチ薬です。高い有効性から、関節リウマチ薬のスタンダード薬として、抗リウマチ薬市場で第1位のシェアを獲得しています。

### 主な製品

#### ●医療用医薬品

- 眼科薬
  - クラビット点眼液（合成抗菌点眼剤）
  - タリビッド点眼液（合成抗菌点眼剤）
  - ヒアレイン（角膜疾患治療剤）
  - チモトル点眼液（緑内障治療剤）
  - リボスチン点眼液（抗アレルギー点眼剤）
- 抗リウマチ薬
  - リマチル／アザルフィジンEN錠
- 一般用医薬品
  - サンテFXネオ／サンテ40／サンテドゥ
- 医療機器
  - 眼内レンズ（白内障手術関連）
  - 超音波白内障手術装置
  - 手術用鋼製小物

### 事業分野別売上高比率



## 世界の人々に目とからだの健康を



1958年に医療用眼科事業を立ち上げて以来、40年以上にわたり日本の眼科医療の発展に貢献してきました。1970年には日本で初めて抗生物質の点眼剤化に成功し、国民病といわれたトラコーマの撲滅に貢献しました。

現在では、次世代の医療ニーズとして、高齢化に伴い増加が予想される緑内障の治療剤に力を入れています。

参天製薬は、眼科とリウマチ／骨・関節疾患領域における高い専門性を背景に、多くの人々の目とからだの健康維持・増進に貢献していきます。

## 創業110余年の歴史を礎に



参天製薬は、1890年に田口参天堂として創業。初期の成長を支えた「大学目薬」は、権威ある大学教授をイメージした、ひげと眼鏡の商標で日本全国に広まりました。日本初のプラスチック容器を開発するなど、常に新しいアイデアで眼科薬をリードしてきた参天製薬は、創業時からの理念を受け継ぎ、これからも人々の目の健康に貢献していきます。

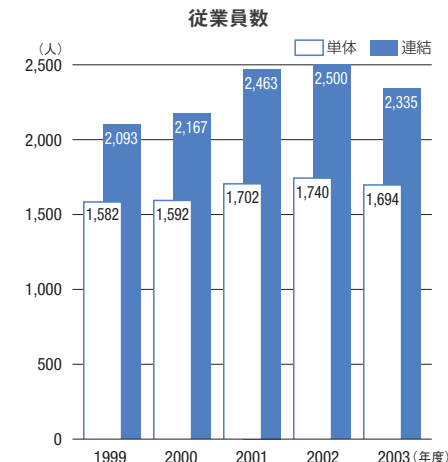


- 1899年 「大学目薬」を発売
- 1935年 淀川工場を開設
- 1952年 目薬に特化した事業戦略をスタート
- 1958年 医療用眼科薬に進出
- 1962年 国内初のプラスチック容器目薬「スーパーサンテ」を発売
- 1993年 米国にサンテン・インクを設立
- 2000年 合成抗菌点眼薬「クラビット点眼液」を発売

## パイオニア精神豊かな参天製薬の社員



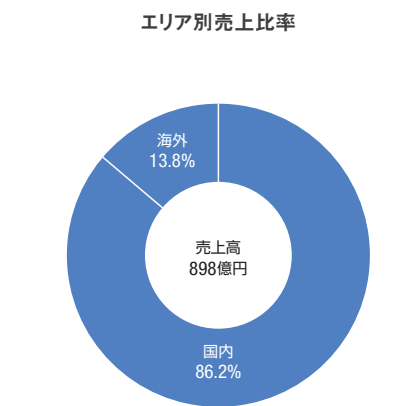
参天製薬では、眼科薬の分野において業界最多の約400人の医薬情報担当者（MR）と約450人の研究員が、日々医療現場のニーズに即した情報提供と優れた医薬品の創製を行っています。



## 世界に広がるネットワーク

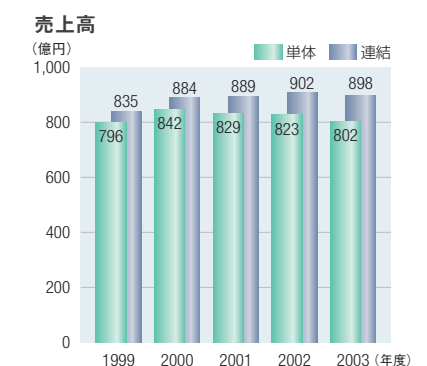
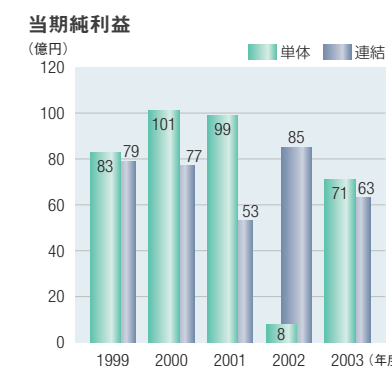
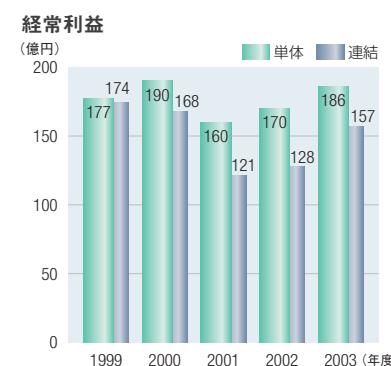


参天製薬は、世界8カ国に拠点をもち、日米欧の3極で臨床開発・販売体制を構築し、卓越した研究開発力に根ざした独自性ある製品を世界に供給しています。



## 会社概要 (2004年3月31日現在)

社名	参天製薬株式会社	事業所	製造拠点：能登工場／滋賀工場／大阪工場 研究所：奈良研究開発センター
創業	1890年（明治23年）	主な営業拠点	札幌／仙台／東京／名古屋／大阪／広島／福岡
資本金	62億1千4百万円	国内子会社	参天物流株式会社／株式会社クレール 五洋企業株式会社
本社所在地	〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄三丁目9番19号	海外子会社	サンテン・ホールディングス・ユーエス・インク サンテン・インク アドバンスド・ビジョン・サイエンス・インク サンテン・オイ／サンテンファーマ・エービー サンテン・ゲーエムベーハー 台湾参天製薬股份有限公司／韓国参天製薬株式会社
取締役社長	森田隆和		
事業内容	医療用医薬品、一般用医薬品、医療機器の製造・販売		
決算期	3月31日		
従業員数	単体 1,694名／連結 2,335名		



参天製薬と環境との関わり

### 事業活動の環境負荷を把握しています。

参天製薬では、研究開発・製造・販売といったライフサイクルごとの環境負荷を算出することで、負荷の全体像を把握しています。これに基づいて、より計画的・効果的な施策を実施し、環境負荷低減に努めていきます。

#### INPUT ▶▶▶

総エネルギー使用量 3,803GJ

電気	38.0万kWh
LPG	0.1t
ガソリン	0.6kℓ
軽油	1.0kℓ

水資源使用量 0.1万m<sup>3</sup>

上水	0.1万m <sup>3</sup>
----	--------------------

#### INPUT ▶▶▶

総エネルギー使用量 740,660GJ

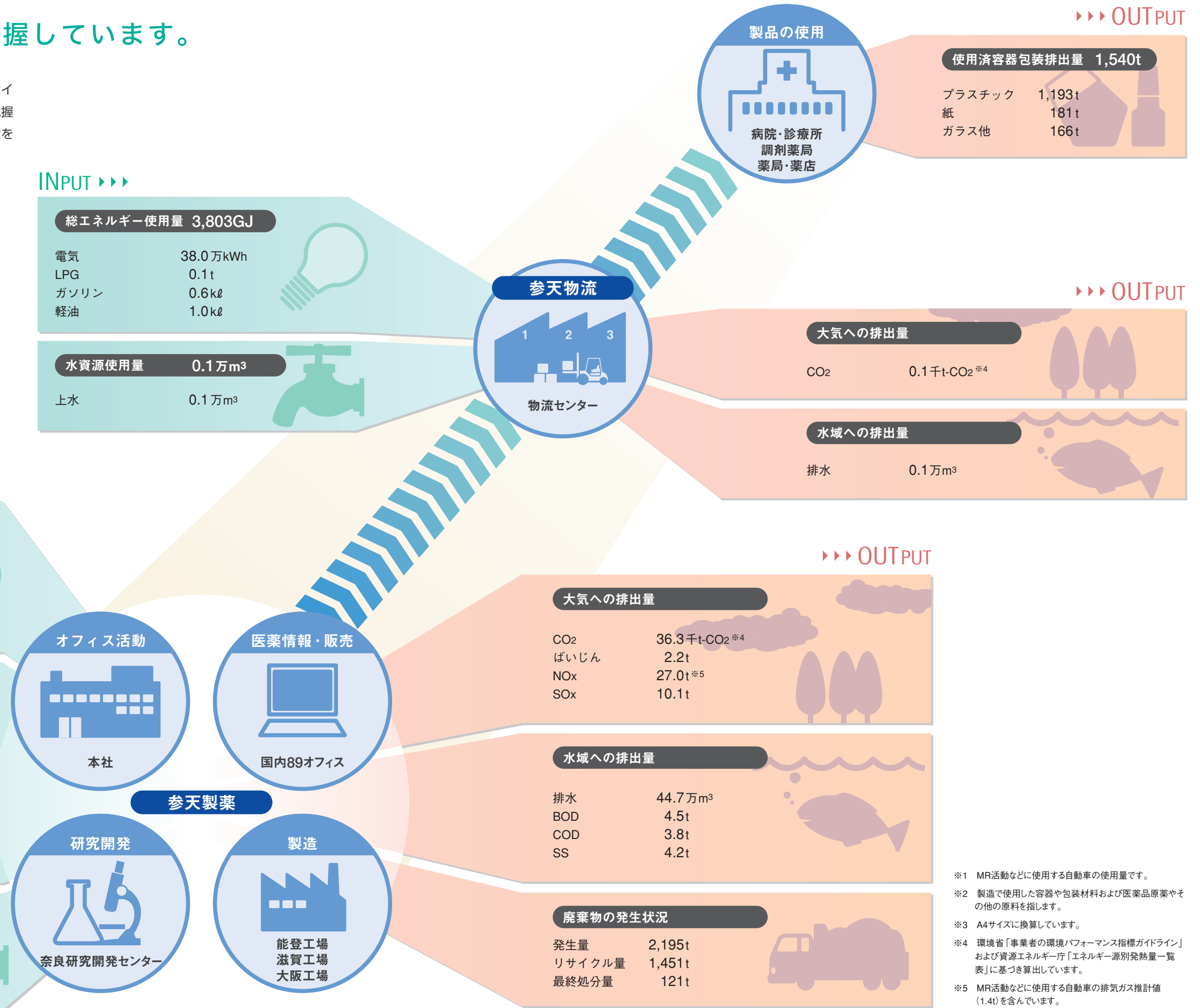
電気	3,339万kWh
都市ガス	382万m <sup>3</sup>
LPG	10t
A重油	5,232kℓ
ガソリン	1,026kℓ <sup>※1</sup>

総物質投入量 3,386t

材料 <sup>※2</sup>	2,949t
プラスチック類	2,030t
包装等紙類	887t
ガラス	19t
その他(アルミなど)	13t
原料 <sup>※2</sup>	365t
循環資源	68t
コピー用紙など	1,551万枚 <sup>※3</sup>
化学物質	4t

水資源使用量 58.2万m<sup>3</sup>

上水	20.1万m <sup>3</sup>
工業用水	7.3万m <sup>3</sup>
地下水	30.8万m <sup>3</sup>



※1 MR活動などに使用する自動車の使用量です。  
 ※2 製造で使用了容器や包装材料および医薬品原薬やその他の原料を指します。  
 ※3 A4サイズに換算しています。  
 ※4 環境省「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン」および資源エネルギー庁「エネルギー源別発熱量一覧表」に基づき算出しています。  
 ※5 MR活動などに使用する自動車の排気ガス推計値(1.4t)を含んでいます。

環境方針

## 環境活動に関する方針を定めています。

参天グループでは、環境保全活動を各事業・部門の重要施策の一つと位置付け、「環境基本方針」(1998年制定) および「環境行動指針」(2000年制定) を策定しました。これら2つを参天グループの環境方針に掲げ、自然保護と地球環境保全に積極的に取り組んでいます。

### 環境基本方針

参天グループは、社名の由来である「天機に参与する」を基本理念に、地球環境問題の国際的な取り組みと呼応し、「美しい地球を次世代に引き継ぐ」ことに向け、グループ各企業が社会の一員であることを深く認識し、現在および将来にわたり企業活動のあらゆる面で、環境の質を保護・保存し、向上させる努力をたえず続ける。

グループ各企業および、これらの社内すべての環境マネジメント関連組織は、この「環境基本方針」を理解すると共に、これを具現化するための環境方針を定め、これを達成するため環境マネジメントシステムを実施し維持しなければならない。

(1998年12月制定、2004年3月改訂)

### 環境行動指針

- 環境マネジメントシステム確立と維持 **1** 環境目的・目標設定、継続的改善、環境監査による実効性向上
- 環境関連法規制、条例の遵守 **2** 法規、条例、業界指針、自社自主基準の遵守
- 省資源、省エネルギー、リサイクル推進 **3** 省資源、省エネルギー、廃棄物削減、リサイクル率向上による環境負荷低減
- 啓発と意識開発 **4** 全役員・従業員に周知、社員教育・啓発、意識開発による自主的活動の推進
- 環境方針の情報公開 **5** 必要に応じて一般への公開

(2000年11月制定、2004年4月改訂)

2003年度の実績と今後の課題

## 取り組みの成果をご報告します。

2003年度はおおむね目標を達成することができました。特にCO<sub>2</sub>排出量については、前年度比4.1%削減(2001年度現有施設を対象とした排出量)となり、2010年度の削減目標に向けて順調に取り組みが進んでいます。一方、廃棄物については、汚泥のリサイクル開始時期の遅れなどにより、最終処分量100トン以下という目標を達成できませんでしたが、引き続きゼロ

エミッションに向けて分別廃棄とリサイクル化を進めていきます。また、参天物流での環境マネジメントシステムの構築により、環境活動をグループ会社に広げることができました。

環境負荷削減や活動目標達成のためには、一人ひとりの意識が重要ですので、今後も啓発活動に努め、従業員全員で取り組んでいきたいと思っております。



常務取締役 社会・環境担当  
三田 昌宏

項目	2003年度の実績	自己評価	2004年度以降の目標
環境マネジメントシステム	<ul style="list-style-type: none"> <li>●参天物流環境マネジメントシステム構築</li> <li>●参天製薬環境マネジメントシステムの継続運用</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●グローバル環境活動の把握</li> <li>●グループ会社の環境マネジメントシステム構築検討</li> </ul>
省エネルギー・地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>●CO<sub>2</sub>排出量:29,407t-CO<sub>2</sub>(▲4.1%) 《目標:31,000t-CO<sub>2</sub>以下》 ※2001年度現有施設を基準 〔総CO<sub>2</sub>排出量:36,337t-CO<sub>2</sub>(▲0.4%)〕</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●2004年度のCO<sub>2</sub>排出量:34,900t-CO<sub>2</sub>以下(4事業場を対象)</li> <li>●製薬協に準じたCO<sub>2</sub>削減目標の達成(2010年度に1990年度レベル以下にする)</li> </ul>
廃棄物削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>●最終処分量:121t(対前年比▲51.3%) 《目標:最終処分量100t以下》</li> <li>●リサイクル推進計画策定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●2004年度における最終処分量:70t以下</li> <li>●製薬協に準じた廃棄物削減目標の達成(最終処分量を2010年度までに1990年度の30%まで削減する)</li> <li>●リサイクルの推進</li> <li>●工場からの廃棄物ゼロに取り組む</li> </ul>
化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>●排出に関する管理方針の策定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●大気排出量の測定方法等検討</li> </ul>
規制遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大気、水域への排出、振動・騒音についていずれも規制基準値内で管理</li> <li>●土壌汚染調査に関する方針策定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●管理の継続</li> </ul>
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グリーン購入率47%(目標:60%)</li> <li>●社有車の低公害車導入率:89%(237台中210台)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●グリーン購入率90%(2006年)</li> <li>●社有車の低公害車導入率100%(2006年)</li> </ul>
教育・啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「環境報告書2003」発行</li> <li>●サイトごとに環境ニュース、啓発ポスターによる活動推進</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境ニュースの発行等の継続</li> <li>●教育システム(e-ラーニング)の導入</li> </ul>
環境社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域美化活動の実施(本社地区・滋賀工場・能登工場)</li> <li>●環境社会貢献施策の策定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の環境美化活動実施・継続</li> </ul>

凡例: 目標以上達成 目標どおり達成 目標一部未達成



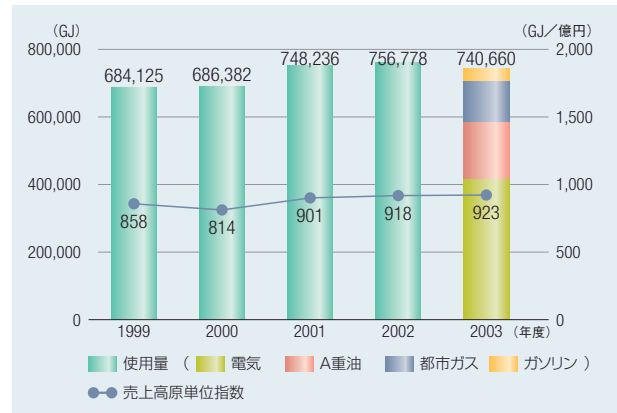
省エネルギー・地球温暖化防止

## 地球温暖化の防止に取り組んでいます。

### エネルギー使用量

化石燃料の枯渇が問題となる中、有限な資源を効率的に活用するため、さまざまな省エネルギー活動に取り組んでいます。2003年度のエネルギー消費量は前年度比2.1%削減することができました。これは、主力工場の能登工場でスチームトラップの改修やスチームドレンの回収タンク集約化による省エネルギー活動、滋賀工場で動力設備の運転条件を変更したことや蛍光灯の間引きなど、さまざまな取り組みの成果であると考えられます。

#### エネルギー使用量



### 水資源使用量

2003年度は冷夏・暖冬であったため、夏季の工場での散水および冬季の融雪のための水資源使用量が低減しました。さらに、能登工場で充填剤工程の洗浄水の削減に努めたことなどにより、水資源使用量は58.2万m<sup>3</sup>で、前年度比12%削減となりました。

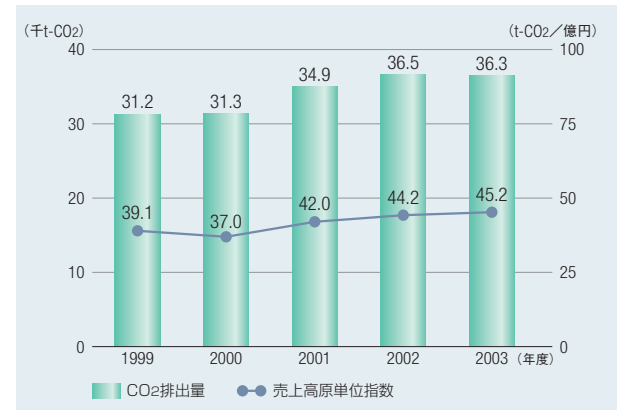
#### 水使用量



### CO2排出量

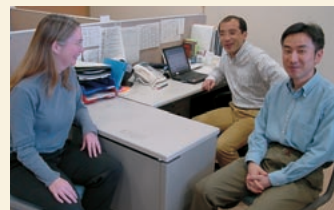
地球温暖化を防ぐため、当社では、日本製薬工業協会が掲げるCO<sub>2</sub>排出量削減目標（2010年度に1990年レベル以下とする）に準じた目標を定め、CO<sub>2</sub>排出量削減に取り組んでいます。2001年度の施設を対象とするCO<sub>2</sub>排出量は29,407t-CO<sub>2</sub>と目標を達成することができました。これは研究所の移転に伴って、使用効率が低下したコージェネレーションシステムを大阪工場に導入し、有効活用した結果によるものです。また、2002年以降の増築分を含む2003年度のCO<sub>2</sub>総排出量は36,337t-CO<sub>2</sub>となり、昨年より0.4%削減となりました。今後もCO<sub>2</sub>排出量削減に努めていきます。

#### CO2排出量



### ビジネスカジュアルの推進

2002年7月にビジネスカジュアルの制度（ネクタイなどを外した軽装で業務を行う制度）を導入してから約2年が経ちました。当初7月から9月までの夏期に限って実施していましたが、社内でのアンケート調査で継続を望む声が多かったことから、1年を通じてビジネスカジュアルを推進することとなりました。これにより、オフィスの冷暖房を適正化（冷房27℃/暖房20℃）でき、省エネルギーにつながっています。



廃棄物削減

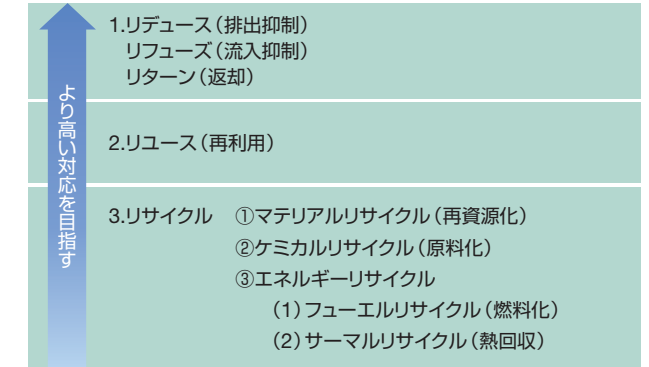
## 廃棄物のリサイクルを進めています。

### 廃棄物削減とリサイクルの推進

当社では、製薬協目標（最終処分量を2010年度までに1990年度の30%まで削減する）に準じた廃棄物の削減目標を定めています。この目標を達成するため、廃棄物を可能な限り削減するリデュースの取り組みを基本に、発生した廃棄物のリサイクルを進めています。

2005年をめどに全事業所で、資源の有効利用の促進に関する法律（資源有効利用促進法）や各種リサイクル法等に基づくリサイクル対応品目をすべてリサイクル化することを目標に、ゼロエミッション達成に向けて廃棄物の分別とリサイクルを推進しています。

#### 資源の有効活用のための優先順位



### 2003年度の成果

2003年度の廃棄物排出量は、2,195トンとなり、廃棄物の排出量を前年度比8.9%削減することができました。これは、従来、詰め替えのため廃棄していた大阪工場が取り扱う輸入医薬品の外装ダンボールを再使用することで廃棄量を約50トン削減したことなどによるものです。また、能登工場において廃棄物の約25%を占める汚泥についてコンクリート材料などへのリサイクル化を実施したことや、本社地区でシュレッダー屑のリサイクル化などの取り組みの結果、廃棄物の最終処分量を121トンに削減することができました。しかし、最終処分量100トン以下という目標に達することができませんでした。今後はリサイクルの推進によりさらに最終処分量の削減に努めます。

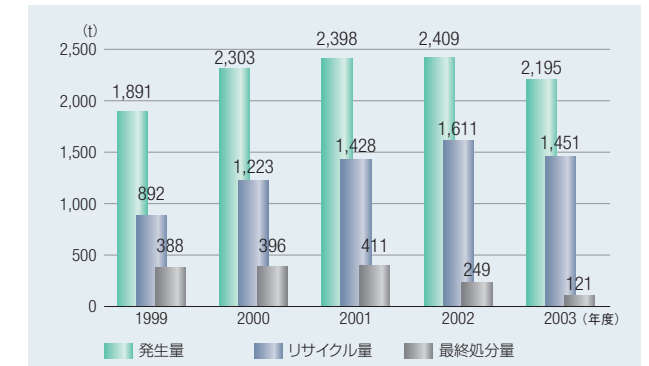


ダンボールのリユース

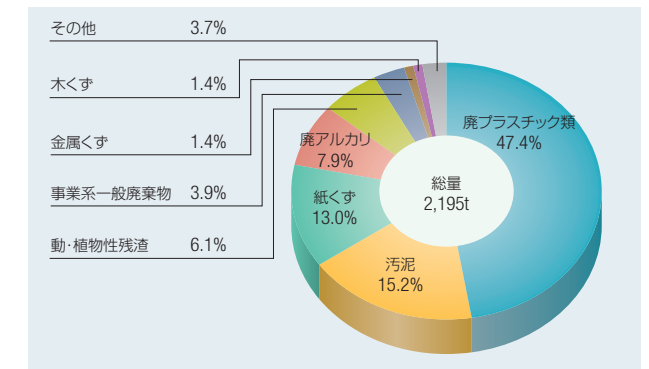
#### 各サイトにおける廃棄物削減のための取り組み

- クリーンルーム入室の際に用いるポリ袋使用の見直し
- コンテナを破損しにくいものに変更
- ダイレクトメール・カタログなどの返却
- 両面コピー、縮小印刷の実施による紙使用量の削減

#### 廃棄物排出量



#### 廃棄物の内訳



### 化学物質の管理

## 化学物質を適正に使用しています。

使用する化学物質については、化学物質管理促進法に基づく適正な管理を行っています。研究開発部門では2002年に化学物質管理システムを導入し、管理を一元化することで適正使用に努めています。また、大気や水域など外部環境への排出を可能な限りゼロに近づけることを目標に、有機溶剤回収装置の導入や、スクラパーや活性炭を用いた回収を行っています。

化学物質管理促進法（PRTR法）の第一種指定化学物質で取扱量が年間1kg以上あった物質は19物質ありました。この中で、アセトニトリルについては、本社地区（大阪工場・製剤開発サイト）で1トン以上の使用があるため、PRTR法に基づき排出量と移動量を届け出しています。

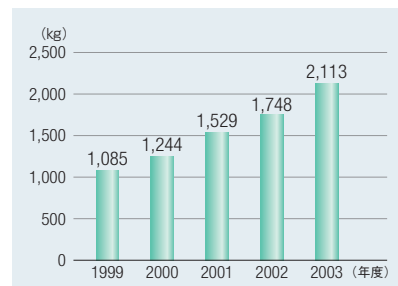


有機溶剤回収装置

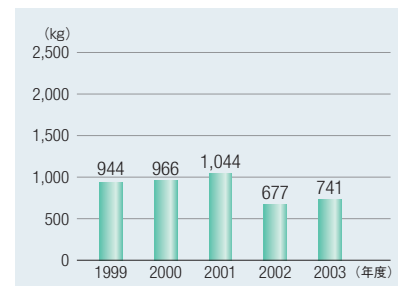
化学物質取扱量 単位:kg

物質名	取扱量	合計
アセトニトリル	2,113	4,169
ほう素及びその化合物	741	
クロロホルム	529	
キシレン	270	
トルエン	223	
ホルムアルデヒド	149	
ジクロロメタン	54	
N,N-ジメチルホルムアミド	31	
グルタルアルデヒド	15	
マンガン及びその化合物	12	
1,4-ジオキサン	11	
その他（1kg以上10kg未満の8物質）	21	

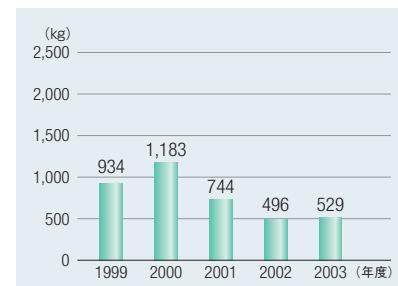
アセトニトリル



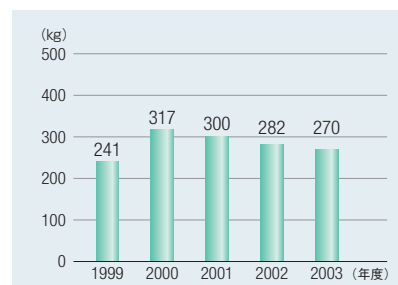
ほう素及びその化合物



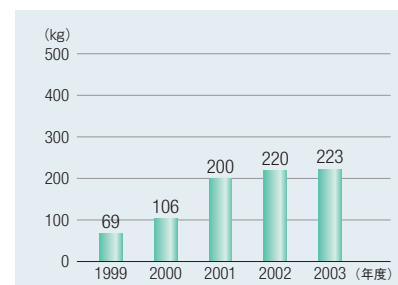
クロロホルム



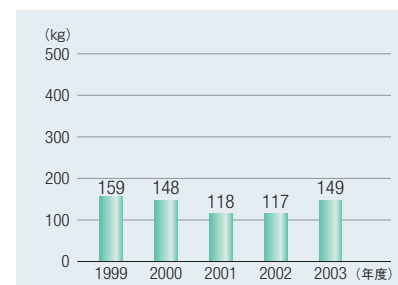
キシレン



トルエン



ホルムアルデヒド



PRTR法対象化学物質の排出量及び移動量（本社地区） 単位:kg

化学物質番号	化学物質の名称	排出量				移動量	
		大気への排出	公共用水域への排出	当該事業所における土壌への排出	当該事業所における埋立処分	下水道への移動	当該事業所外への移動
12	アセトニトリル	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	1500.0

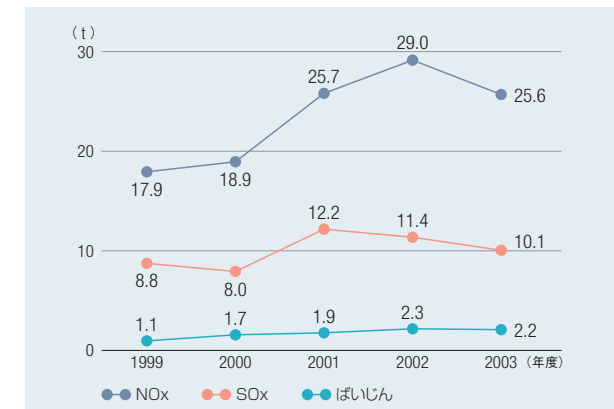
### 環境法規制の遵守

## 環境に関する規制を守ります。

### 大気汚染物質の排出状況

大気汚染防止法に基づき、事業所ごとに排出ガスの濃度を定期的に測定しています。排出状況および環境への負荷量は定期測定の結果に基づき把握しています。ばいじんやSOx(硫酸化物)の排出量は、硫黄分を含まない都市ガスを使用している事業所があるために少なくなっています。

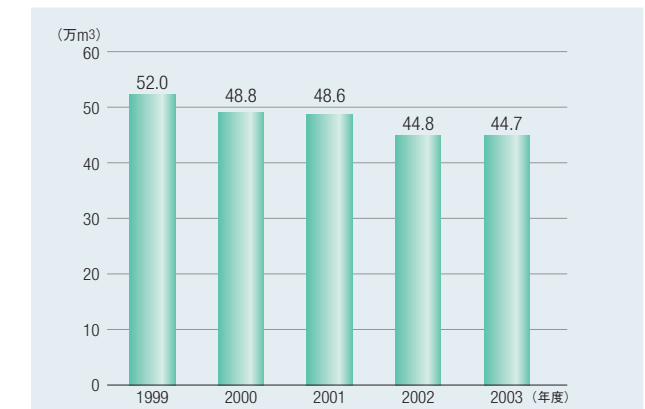
大気汚染物質排出量



### 水質汚濁物質の排出状況

事業所ごとに排水処理設備を設け、適切な処理を行っています。定期的に水質検査を実施し、すべての事業所において規制基準を大きく下回る範囲であることを確認しています。なお、これら定期検査の結果と排水量を基に水質汚濁物質の排出量を算出しています。

排水量



### 土壌・地下水汚染

敷地の売却や用途変更が発生した時点で土壌調査を行うことを検討しています。なお、大阪市内にあった寮を売却する際、敷地の規模が調査対象以下であること、また、周辺の状況や使用履歴などから、汚染の可能性がないと判断できたため、調査は実施しませんでした。

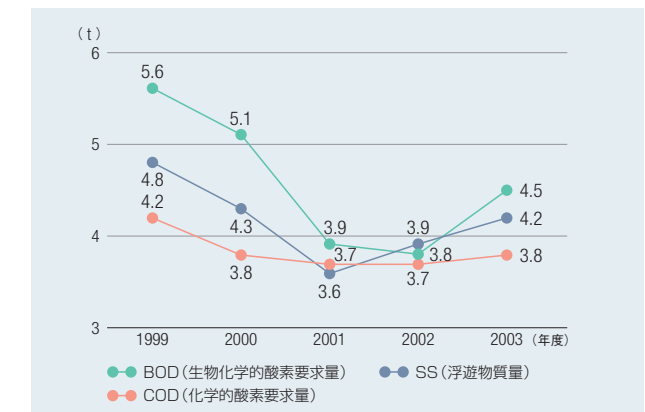
### 騒音・振動

騒音・振動については、敷地境界線上で定期的に測定しており、すべての事業所において規制基準を下回っています。大阪工場では住宅地に隣接しているため、騒音・振動の低減は極めて重要であると考え、設備メンテナンスなどにおいても騒音発生抑制に努めています。



騒音測定の様子

水質汚濁物質の排出量



### 容器包装リサイクル法への対応

当社製品は医療機関や家庭で使用され、その後、包装材や容器が廃棄物となって排出されます。当社では、容器包装リサイクル法に基づき（財）日本容器包装リサイクル協会に委託料金を支払い、これらの廃棄物の適正な処理と再商品化に対する義務を果たしています。



環境マネジメント

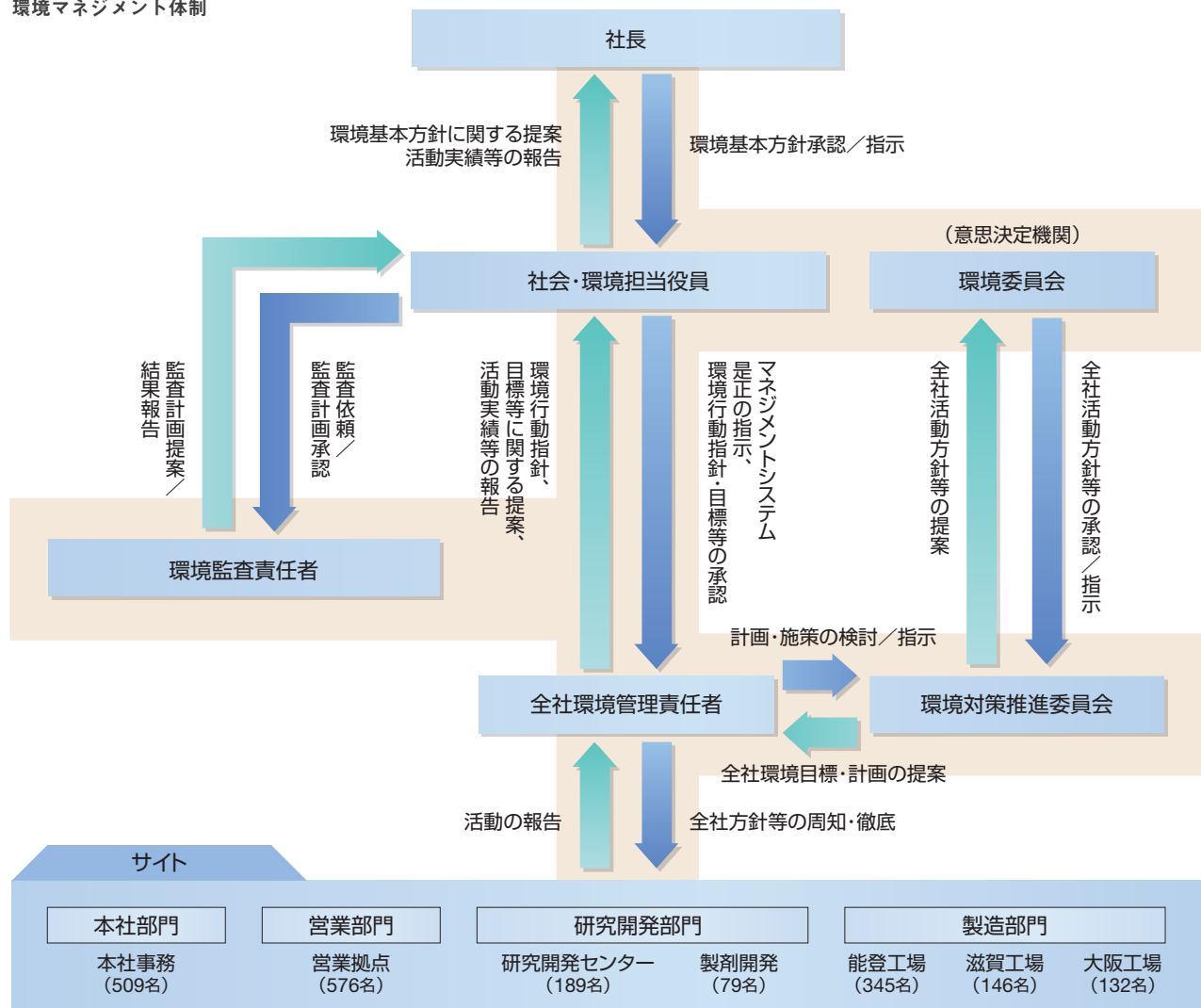
## 実効性のあるマネジメント体制で環境活動を進めています。

### 環境マネジメントシステムの推進

参天製薬では、環境マネジメントシステムを環境活動推進の重要なツールととらえています。国内の全工場でISO14001の認証を取得し、環境マネジメントシステムを運用するとともに、非生産部門の事業所においてもISO14001に準じた当社独自のマネジメントシステムを構築し、2001年より運用しています。

環境活動に関する全社の最高意思決定機関として社会・環境担当役員を委員長とする環境委員会を設けており、ここで環境活動の方向性や施策を決定します。決定された施策に沿って、事業所および業務機能ごとに7つに区分された各サイトで具体的な目標と計画を定め、活動を進めています。

### 環境マネジメント体制



人員は、2004年3月末現在、派遣社員等を含む

### ISO14001 認証取得状況

国内の全工場で、環境マネジメントの国際規格であるISO14001の認証取得を完了しました。現在、海外の生産部門における環境活動の把握に努めており、国内の本社部門、研究開発部門も含めてISO14001認証取得についての検討を行っています。

### ISO14001 認証取得状況

事業所名	取得年月
滋賀工場	1999年 12月 (2003年12月更新)
大阪工場	2001年 6月 (2004年6月更新)
能登工場	2003年 1月

### 内部環境監査

環境マネジメントシステムが適切に運用されているか、また環境関連法規制を遵守しているか、環境目標が達成できているかなどを確認するため、ISO14001認証機関による外部監査のほかに、各サイトにおいて内部環境監査を定期的に行っています。

2003年度には、すべてのサイトで内部環境監査を実施しました。各サイトとも環境法規制の違反や、重大な環境事故につながる問題点は発見されませんでした。しかし、環境教育の実施が十分でないなどの指摘事項もあり、現在、その改善に努めています。

また、サイトごとに内部環境監査員研修を実施し、監査員を順次養成しています。



内部環境監査

### 内部環境監査での指摘事項

- 良い点**
  - 各部門ともサイト目標からブレイクダウンされた目標が定められ、マネジメントプログラムに基づく活動が確実に実行されている。
- 改善点**
  - 教育・訓練が手順どおりに実施されていないところがある。
  - 一部の従業員だけの活動になりがちである。
  - 文書・記録の管理・運用が一部手順どおりに実施されていないところがある。



### 参天物流 (株) に環境マネジメントシステムを構築

環境意識の高い参天物流では、以前から積極的に廃棄物の分別や省エネルギーなどの環境活動を進めてきました。これらの活動をより体系的に推進するため、2003年5月から環境マネジメントシステムの構築を開始し、2004年4月より導入しています。当社では、参天グループ全

体の環境負荷を削減することが重要であると考え、グループ会社も含めた環境マネジメントシステムの構築を進めています。また、海外のグループ会社についても現状の把握に努め、環境活動を広げていく方針です。



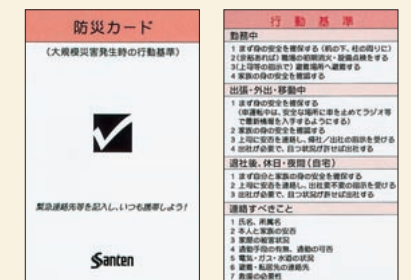
参天物流



### 災害や緊急事態に備えたリスク管理

参天製薬では、危機管理のため「行動基準」を定めており、大規模地震などの災害が発生した時は、社員と家族の安否情報をすみやかに職場に連絡することを義務づけています。この行動基準は、全社員に配布される「防災カード」に記載されており、社員が常にカードを携帯することで、大規模災害の発生時に適切な行動が取れるよう指導しています。また、震度6弱以上の震災など、大規模災害の

発生時には、自動的に本社災害対策本部が設置され、NTTのボイスボックスを通じて連絡・情報を得ることができます。本社が被災した場合には、別途災害対策本部を設置し、常に緊急連絡体制を整えるよう努めています。また、緊急時に備え、各サイトごとに定期的に訓練を行っています。



防災カード



環境会計

環境活動に関わるコストと効果を把握しています。

環境保全の取り組みに関わるコスト（投資額と費用）およびその効果（経済効果と環境保全効果）を把握し、より効率的な環境経営を実践するために、また、皆様に環境保全への取り組みを費用対効果の形でご理解していただくために、環境会計を導入しています。

主要な事項

- 対象期間：2003年4月1日～2004年3月31日  
 対象範囲：参天製薬単体の環境保全に関わるコストおよびその効果  
 集計方法：  
 ●環境保全コストは、その目的が明らかに環境保全に関わるものと判断できる場合のみ計上しています。  
 ●環境保全コストの費用額には減価償却費を含めており、財務会計上の法定耐用年数を採用し計上しています。  
 ●当期の投資については、投資額と費用額の両方に計上しています。  
 ●環境管理担当部署の担当者および環境マネジメントシステムの認証取得に関する事務局担当者の人件費を環境保全コスト（管理活動コスト）に計上しています。  
 ●環境保全効果は、前年度との単純比較により環境負荷削減量を算出しています。  
 ●環境保全対策に伴う経済効果は、確実な根拠に基づいて算出される実質的效果のみを計上しています。

環境保全コスト

分類	主な取り組みの内容	投資額 (百万円)	費用額 (百万円)
1.事業エリア内コスト		26	228
内 訳	(1)公害防止コスト	(11)	(93)
	(2)地球環境保全コスト	(15)	(51)
	(3)資源循環コスト	0	(84)
2.上・下流コスト	容器包装再商品化委託	—	8
3.管理活動コスト	ISO認証維持、事業所内の緑化・美化、環境担当部門の人件費、水質・排ガス測定等、環境教育費	0	113
4.研究開発コスト	—	—	—
5.社会活動コスト	事業所周辺清掃、琵琶湖岸清掃、奈良研究開発センター地域交流会	—	1
6.環境損傷コスト	—	—	—
合計		26	350

—は取り組みや投資などが発生していないもの。少額の場合は0としています。

2003年度は環境保全に関わる投資はほとんど発生していませんが、主なものとして能登工場において、省エネルギー対策に関する現状把握を進める上でより細かく蒸気の供給状況を把握できるようにするため、幹線だけではなく新たに支線にも蒸気流量計を設置しました。また、照明の間引きを行うとともに照明器具のインバータ化や回路の変更等を行いました。

本社地区では、コージェネレーションより電気を供給していた研究所建物が使用されなくなったため、供給先を大阪工場に切り替えコージェネレーションを継続活用できるようにしました。



蒸気流量計

環境保全効果

効果の内容	指標の分類	環境負荷削減量 (2002年度比)	環境負荷量 (2003年度)	
事業活動に投入する 資源に関する効果	エネルギーの投入量 [GJ]	16,118	740,660	
	内 訳	電気 [万kWh]	265	3,339
		都市ガス [万m³]	-54	382
		LPG [t]	±0	10
		A重油 [kℓ]	256	5,232
		ガソリン [kℓ]	125	1,026
事業活動から排出する 環境負荷および 廃棄物に関する効果	水の投入量 [万m³]	8.1	58.2	
	CO <sub>2</sub> 排出量 [千t-CO <sub>2</sub> ]	0.2	36.3	
	ばいじん排出量 [t]	0.1	2.2	
	NO <sub>x</sub> (窒素酸化物) 排出量 [t]	3.4	27.0	
	SO <sub>x</sub> (窒素酸化物) 排出量 [t]	1.3	10.1	
	総排水量 [万m³]	0.1	44.7	
	BOD (生物化学的酸素要求量) 排出量 [t]	-0.68	4.50	
	COD (化学的酸素要求量) 排出量 [t]	-0.06	3.80	
	廃棄物総排出量 [t]	214	2,195	
	廃棄物最終処分量 [t]	128	121	

環境保全対策に伴う経済効果

	指標の分類	金額(百万円)
収 益	プラスチックのリサイクル	12
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の削減	39
	汚泥のリサイクル化による処理費用削減	1

	指標の分類	金額(百万円)
当該期間の投資額の総額	新点眼容器製造ライン導入など	2,291
当該期間の研究開発費の総額	開発研究の質・量・スピード向上	12,023

「当該期間の投資額の総額」に対する環境保全コストの「投資額」の割合は1.1%となりました。

今後の取り組み

現在、参天製薬単体の環境保全に関わるコストおよび効果を集計していますが、滋賀工場敷地内にある(株)クレールや2004年度より環境マネジメントシステムの運用を開始した参天物流(株)といった子会社についても環境会計の対象範囲としてコストおよび効果を可能な範囲で集計できるよう取り組みを進めたいと考えています。また、当社の環境保全

活動の取り組み内容について、よりご理解をいただけるようにするため、環境省ガイドラインの公表用A-2表の分類(小分類)に基づく環境保全に関わるコストの把握に努めました。一部コストについて分類先を定義できなかったため、従来通り中分類での集計・公表を行うことになりました。今後も継続して小分類で公表できるように取り組みを進めます。

### グリーン購入

## 環境にやさしい製品を購入しています。

参天製薬では、会社および従業員が業務上使用する購入品（事務用品・生活用品など）に関し、環境に配慮した製品を積極的に購入するグリーン購入を推進しています。

2002年度より、文具類の電子購買を開始しました。同システムで購入した物品のうち、グリーン製品の割合（個数ベース）をグリーン購入率と定め、その向上に努めています。2003年度のグリーン購入率は47%で、目標の60%に達しませんでした。今後は、社内での啓発活動をさらに強化するとともに、購入量の多い品目の中から「強化品目」を定め、グリーン購入を拡大していきます。また、医療機関向けに作成している「参天製薬手帳」はエコマークの認定を受けています。さらに、営業車を順次低公害車に切り替えるなど、環境負荷削減の取り組みを進めています。



参天製薬手帳

### グリーン製品の定義

- グリーン購入法適合商品** グリーン購入法の基準を満たす製品
- エコマーク** (財)日本環境協会が認定している製品
- GPN DB掲載** GPNデータベースに掲載されている製品

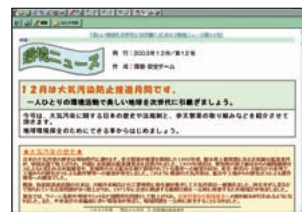
### 環境教育・啓発

## 従業員の環境意識向上を図っています。

環境保全活動の展開のためには、社員一人ひとりの意識を高めることが大切です。参天製薬では、環境一般教育、内部監査員教育など、社員の教育・啓発活動に積極的に取り組んでいます。

社員の環境意識を高めるため、イントラネットを通じて「環境ニュース」を発信しています。毎回、環境に関する身近なテーマを中心に掲載し、環境月間・省エネ月間など環境行事に合わせて発行しています。

全社的な取り組みの他に、各サイトでも環境教育・啓発用の冊子を発行しています。また、新入社員・中途入社社員に対し、環境に対する研修を行っています。



環境ニュース (4回発信)



滋賀工場  
環境NEWS (3回発行)  
環境報告書

大阪工場  
OEMSニュース  
(5回発行)



能登工場  
環境ニュース (1回発行)  
環境報告書



(株)クレール  
Claire環境ニュース  
(3回発行)

# エコットとしずくの サイトレポート



参天製薬では、各工場や研究所などのサイトごとに環境活動を行っています。環境への負荷を減らすと同時に、地域社会にも貢献する企業であるために、どのような取り組みを行っているのでしょうか？それぞれのサイトの特色ある活動を探しに、ボク「エコット」は、仲良しの「しずく」ちゃんと一緒にサイトの見学に行ってきました。

はじめに、能登工場にやってきました。能登工場は、参天製薬の主力工場だとお聞きしましたが、どんなところですか？



日本海を望む能登半島の入口にあり、工場建設以前の自然林をそのまま利用した緑地帯を設けた公園型の工場です。また、周囲の環境と調和を図り、地元の「桜の町」構想に呼応して桜の樹を約130本植栽しています。



能登工場長  
西野 利男

### エコットとしずくのサイトレポート

#### 能登工場サイト



所在地：〒929-1494  
石川県羽咋郡志雄町字敷波  
式号14番  
生産品目：医療用点眼薬と一般用点眼薬  
従業員数：345名



S'ecomのミーティング

**エコット** 環境活動について、何か他のサイトと違った特徴はありますか？

**工場長** 能登工場は、参天製薬の主力工場ということもあって、参天製薬全体で使用するエネルギーの約4割を使用しています。毎年、電気・熱エネルギーの削減テーマを設け、全従業員が省エネルギー活動に積極的に取り組んでいます。また、2003年度より、設備チームにおいて、S'ecom活動を始めました。

**しずく** S'ecom活動？それは何ですか？

**工場長** 省エネルギー・環境保全を目的としたボトムアップ型改善活動です。S'ecomは、S:Sanzen (参天)、eco:ecology (環境)、m:meeting (会議) の頭文字をとったものです。

**エコット** 従業員の方には、どのような環境意識の啓発活動を行われたんですか？

**工場長** 環境保全活動に対する取り組みの必要性をテーマに、全従業員に対して講話を行いました。「今なぜ地球環境の保全が必要か」「環境保全活動は日本人に合った活動である」「地球環境の保全を進めるために」をキーワードとして話しました。従業員の環境保全活動における意識高揚に成果があったと思います。

**エコット** 廃棄物を減らすことにも積極的に取り組んでおられるそうですが。

**工場長** はい、全従業員が廃棄物の分別収集について理解し、それを実践しています。環境負荷の少ない循環型社会実現のため、工場から出る廃棄物の再資源化を推進し、ゼロエミッション工場構築を推進しています。その結果、2003年度の廃棄物リサイクル率は、2002年度に比べて約1.8倍向上し、60.5%となりました。

**エコット** 従業員の方が一丸となって環境活動に取り組んでおられるんですね。



#### 2003年度の取り組み

- LPガス使用量の削減
- 井水、上水使用量（排出量）の削減
- 廃水汚泥のコンクリート材料へのリサイクル化
- 工場周辺の清掃
- 従業員の教育・啓発のための環境ニュース、工場用環境報告書の発行

項目	基準値	測定値	項目	基準値	測定値	項目	基準値	測定値	項目	基準値	測定値	
大気	ばいじん (g/Nm <sup>3</sup> )	0.3	0.01	水質	pH	5.8~8.6	7.2~7.9	騒音 (dB)	朝	60	50	
	NOx (ppm)	150	64.0		BOD (mg/L)	60	11.0		昼間	65	37	
	SOx (Nm <sup>3</sup> /h) K値17.5	4.54	0.02		COD (mg/L)	60	6.2		夜間	60	31	
				SS (mg/L)	80	12.0	夜間	50	50			

志雄町公害防止協定に基づいています。



滋賀工場サイト



所在地：〒522-0314  
滋賀県犬上郡多賀町  
大字四手字諏訪348-3  
生産品目：医療用点眼薬  
従業員数：146名 ※(株)クレールを含む



彦根学園の運動会



環境管理責任者 小田 和幸  
管理チーム 小林 紳悟

2003年度の取り組み

- グリーン購入の推進
- 緑に囲まれた憩いの場づくり
- 工場外のクリーン清掃実施



続いて、滋賀工場にやってきました。

滋賀工場はびわこ東部中核工業団地であって、参天製薬で最初にISOの認証を取得した工場です。



滋賀工場長 志岐 隆治

工場長 工場敷地内には「重度障害者多数雇用事業所」(株)クレールがあり、一緒に環境活動に取り組んでいます。環境活動については環境管理責任者の小田さんがお答えします。

しずく あれ？この部屋の蛍光灯、2本のうち1本がついてないよ？

小田 実は、1本はダミー管なのです。電力消費量削減のため蛍光灯を間引きしているんですよ。もちろん適切な照度を確保しています。また、一部のトイレや廊下には人がいる時だけ点灯したり明るくなるよう人感センサーを設置しています。その他にも、機械の付帯設備の運転条件を変えて、無駄に動いていた機械を動かさないようにしました。もともと動力電気はたくさんの電気を消費するので、この効果は大きかったですね。

エコット 滋賀県は環境問題に対する意識が高い県として知られていますが、従業員の方の環境への関心はいかがですか？

小田 滋賀工場では『改善提案制度』をうまく活用しています。これは、従業員一人ひとりが会社だけでなく家庭も含め何か環境に良いことを考えて提案する制度です。例えば『近所への買い物には、車ではなく自転車で行く』『買い物袋を持ち歩く』など、簡単なことでいいんです。記入用紙を作って、思いついたことをいつでも書いてもらえるようにしています。2003年度は236件の提案がありましたよ。

エコット 地域の方との関わりはありますか？

小田 滋賀工場の近くに彦根学園という養護学校があるのですが、そちらの運動会や文化祭に毎年10~15名の滋賀工場とクレールの社員がボランティアで参加しています。文化祭で、入園者の手を引いて模擬店までご案内したり、運動会で目の不自由な入園者と一緒に手をつないで走ったりといった補助活動をしています。

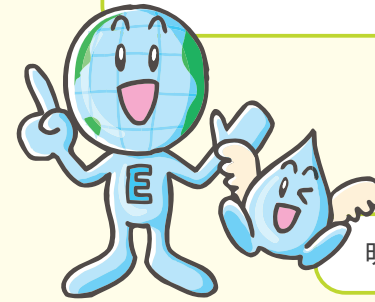
エコット 環境活動で大事なことは何ですか？

小林 大事なものは、当たり前のことを当たり前継続することだと思います。例えば、『使わない時は部屋の電灯を消す』『空調の温度設定基準を守る』などは、当たり前と思われがちですが、それを全員が実践することが大切だと思います。

小田 環境に配慮して設備を入れ替え、大きな効果があった。それもいいのですが、やはり全員が環境に対する意識を持って取り組んでいくことが大切だと思います。

項目	基準値	測定値	項目	基準値	測定値	項目	基準値	測定値	項目	基準値	測定値
※1 大気	ばいじん (g/Nm³)	0.2	0.025	※2 水質	pH	5.0~9.0	6.4~7.9	※2 騒音 (dB)	朝	50	43
	NOx (ppm)	180	99		昼間	55	49				
	SOx (Nm³/h) K値10.0	2.04	0.13		COD (mg/L)	600	120.0	夜間	65	37	
			BOD (mg/L)		600	46.0	※1 滋賀県公害防止条例				
			SS (mg/L)	600	69.0	※2 多賀町公害防止及び環境保全に関する協定					

次は、奈良研究開発センターにやってきました。



やあ、いらっしやい。私がセンターの中を案内しましょう。

明るくてきれいですね！



研究開発センター長 笹野 稔

エコット 日々、どんな思いで研究開発活動に取り組んでおられますか？

センター長 私たちは、患者さんと患者さんを愛する人たちの視点に立ち、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)を改善する医薬品を世に出すことに意義と喜びを見出しています。このため世界最先端の専門性を絶えず身に付け、スピーディーな医薬品開発に取り組んでいます。

エコット 研究開発に使う化学物質の管理はどのようにされていますか？

センター長 研究開発は化学物質を扱う仕事ですから、しっかり管理しないと大変なことになります。そこで、化学物質管理システムを導入しています。購入時に関係する化学物質情報を登録すれば、誰がいつどこで使用したかを、簡単に調べることができます。化学物質の購入から使用までを適正に管理しており、必要最小限の使用量になるよう努めています。また、クロロホルムを代替溶剤に切り替えました。その結果、センター内での使用量が減り、1999年の約半分になりました。

しずく 仕事中に、研究者が化学物質を浴びることはないのですか？危なくないのかな？

センター長 化学物質に直接さらされないように、使用場所ごとにドラフトを設置しており、研究者は其中で保護メガネ、マスク、手袋などをつけて仕事をします。また、環境にも配慮して、ドラフトから排出される空気に含まれる溶媒をフィルターに吸着させ、有機物質の大気への拡散を防いでいます。

センター長 君たちは、お祭りは好き？

しずく エコット 大好きです!!

センター長 そうかい。それなら、ぜひ『高山サイエンスフェスティバル』に遊びにいらっしやい。これは、先端科学について、地域の人たちにもっと知ってもらうために、毎年秋に開かれるお祭りです。いろんな会社が協力して催し物をやりますが、当センターからも参画しています。昨年は、センターの一部を開放し、「眼の健康について考える ~あなたの目は輝いていますか?~」をテーマに、眼科医による目の健康相談や、目に関するテーマ展示を行いました。次回はぜひ君たちも遊びにいらっしやい。

エコット はい！楽しみにしています！今日はどうもありがとうございました。

項目	基準値	測定値	項目	基準値	測定値	項目	基準値	測定値	項目	基準値	測定値
※1 大気	ばいじん (g/Nm³)	0.10	<0.001	※2 水質	pH	5.0~9.0	6.9~8.1	※3 騒音 (dB)	朝	60	46
	NOx (ppm)	150	37		BOD (mg/L)	1500	38.0		昼間	65	46
	SOx (Nm³/h) K値17.5	12.76	測定対象外		COD (mg/L)	—	34.7	夜間	60	15	
			SS (mg/L)		1500	33.0	※1 大気汚染防止法			※2 生駒市下水道条例	
						※3 騒音規制法			※4 振動規制法		

研究開発センターサイト



所在地：〒630-0101  
奈良県生駒市高山町8916-16  
研究内容：眼科とリウマチ／骨・関節疾患領域の創薬および開発研究  
従業員数：189名



光あふれる明るいセンター



高山サイエンスフェスティバル

2003年度の取り組み

- 施設内の環境巡視
- 全従業員に対する教育・啓発活動(レビューと方針説明など)
- 廊下照明の見直しによる電気使用量の抑制
- 化学物質管理システムの完全導入と適正管理の推進



## 大阪工場サイト



所在地：〒533-8651  
大阪市東淀川区下新庄  
三丁目9番19号  
生産品目：手術用眼灌流洗浄液、眼軟膏、  
抗リウマチ薬  
従業員数：132名



あちこちに花のプランターがあり、  
目を楽しませてくれます

大阪工場にやってきました。  
大阪工場は、町中の住宅街に  
あるんですね。



よろしくお願いします

やあ、  
大阪工場までようこそ。  
今日は何でも  
聞いてくださいね。



大阪工場長  
牧野 光眞

### 大阪工場サイト

**工場長** 大阪工場は、参天製薬の中でももっとも歴史のある工場なんです。また、本社事務サイトと製剤開発サイトが隣接していて、協力しながら環境活動に取り組んでいます。周囲には民家がすぐそばまで迫っているため、騒音対策には特に気を付けています。防音壁を作るなどハード面の対策はもちろんですが、自治会の方々と常にコミュニケーションを取るといったソフト面の対策も並行して行っています。そのため「いつもと何だか違う音がしているようです」と、大事になる前に近所の方から気軽に言ってもらえる雰囲気づくりに日頃から努めています。6月の環境月間には、最寄り駅からの通勤道路と工場周辺の清掃活動を本社と一っしょに行っており、地域の皆さんと共に私たちの事業活動もあるんだということを、社員一同で再認識しています。

**しずく** 環境マネジメントのISO14001を取得してから、社員さんの意識はどう変わりましたか？

**工場長** 2001年6月の取得後3年が経過しますが室内温度の空調機の設定や、消灯、紙の分別・リサイクルなどについては、目標を100%達成しています。小さなことを面倒がらずにやるなど、身近なところで社員の意識はとて高くなりました。ゼロエミッションに向けても鋭意取り組み中です。これに加えて、電気や紙使用、廃棄物のように出てきたものを削減する取り組みに合わせて、緑化推進などの活動も行いたいと考えています。

**エコット** 工場では、事故などが起こらないように安全に気を付けることも大事ですよね。

**工場長** 全国安全衛生週間には職場パトロールを行いますが、これとは別に工場長と各チームマネージャーが、製造現場から敷地内のすみずみまで巡視しています。労働安全衛生のシステム構築も今後実施したいと考えています。また、最近は派遣社員さんの割合も増え、ラインリーダーにも女性を登用するなど、女性の活躍の場も広がっています。いろいろな社員が働きやすい職場づくりを進めていこうと思っています。

**エコット** 社員さんも、地域の工場近辺の方も、みんなの笑顔が行き交う大阪工場であることを期待しています。

### 2003年度の取り組み

- 職場パトロールの徹底
- 地域の清掃活動とコミュニケーション
- ダンボールのリユース

項目	基準値	測定値	項目	基準値	測定値	項目	基準値	測定値	項目	基準値	測定値
※1 大気	ばいじん (g/Nm <sup>3</sup> )	0.05	0.005	※2 水質	pH	5.0~9.0	6.3~8.2	※3 騒音 (dB)	朝	60	55
	NOx (ppm)	150	65		昼間	65	57				
	SOx (Nm <sup>3</sup> /h) K値17.5	1.69	測定対象外		夕	60	57				
			夜間		55	54					

※1 大気汚染防止法  
※2 大阪市下水道条例  
※3 大阪府生活環境の保全に関する条例

製剤開発サイトは  
どんなところ？



医薬品の処方・規格・  
容器の開発をはじめ、  
生産技術の確立など、  
製品化のための開発を  
しています。



製剤開発サイト責任者  
森島 健司

### 製剤開発サイト

**エコット** 環境活動にどのように取り組んでおられますか？

**サイト責任者** 本社の環境保全活動に基づいて活動しています。従業員の意識は、だんだん高まってきていますね。2002年の内部監査では色々な指摘をいただいたのですが、それを真摯に受け止め、教育・訓練・啓発活動など、指摘された事項にきっちりと対応した結果、環境マネジメントシステムの運用における改善が飛躍的に行われました。少しずつ、あるべき姿に近づいてきたように思います。今後は、環境保全活動を、従業員の一人ひとりが自立的に実施できるレベルにまで浸透させたいですね。そのための活動を、今後も進めていきます。大変なことですが、コツコツやっていきたいと思っています。

### 本社事務サイト・営業拠点サイト



本社事務サイトや  
営業拠点サイトは、  
どんな環境活動をして  
いるのかなあ

#### ●本社事務サイト

各部門の事務スタッフで構成されていて、各部門の推進担当者（部門委員）の協力のもと、省エネルギーや廃棄物削減、グリーン購入の環境活動を行っています。

#### ●営業拠点サイト

全国の営業拠点89オフィスで構成され、主要拠点を中心に7エリアに分類し各エリアの推進担当者の協力により本社事務サイトと同様の活動を行っています。



営業拠点サイト  
環境管理責任者  
植出 増司

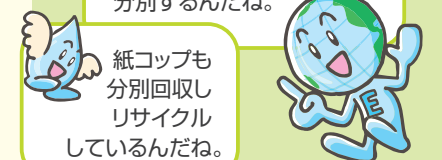
営業拠点サイトはオフィススタッフだけでなく、営業活動の最前線で活躍しているMRにも環境活動に協力してもらうため、各オフィスには環境活動に関する当期の目標や実績などのポスターを作成し掲示する事で啓発活動に努めています。また、営業担当者の中には、最初、お客さまに出すのに白色度の低い再生紙を使うのは気が引けるといふ声もありましたが、お客さまに「環境を守ることが必要かをお伝えし理解していただくことで、参天製薬のイメージアップにつながったようです。

### サイトの旅 を ふりかえって

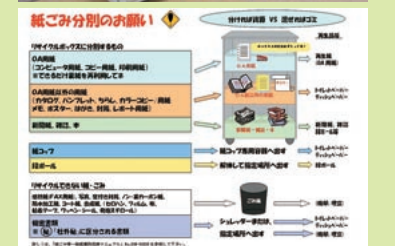
サイトによって、いろんな取り組みがあり、とても勉強になりました。どのサイトでも、従業員一人ひとりが環境についての意識を高め、取り組みを積み重ねていくことが環境の改善につながるという考えがあり、全従業員が参加することを大切にされているという印象を受けました。僕たちも負けてはいられないぞ！読者の皆さんも、僕たちといっしょに、できることから『環境にいいこと』、始めていきませんか？

## 製剤開発サイト 本社事務サイト・ 営業拠点サイト

使用済みのコピー用紙や  
新聞・雑誌は  
このリサイクルボックスに  
分別するんだね。



紙コップも  
分別回収し  
リサイクル  
しているんだね。



オフィスのごみ分別ボックス・ポスター





コンプライアンス

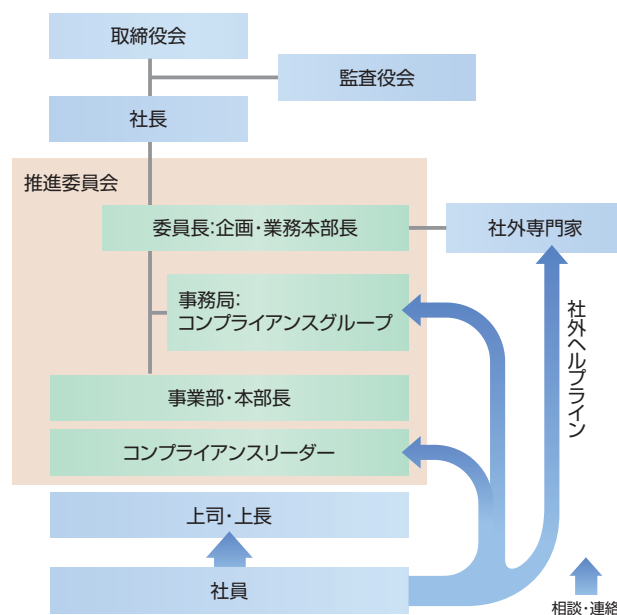
## コンプライアンス体制を強化しました。

### コンプライアンス推進体制の強化

参天製薬は、医療に携わる企業として、高い倫理観を持って企業活動を行うことが重要であると考えています。法令や社会のルールおよびその精神を遵守し、社会との信頼関係をより深めていくため、コンプライアンス体制を強化しました。

新体制では、コンプライアンス担当役員（企画・業務本部長）を任命するとともに、各事業部・本部にコンプライアンスリーダーを配置しました。また、コンプライアンス担当役員、各事業部・本部長、コンプライアンスリーダーからなる推進委員会を組織し、コンプライアンスに関する方針や実行計画、違反への対応策、再発防止策などを策定します。

#### コンプライアンス推進体制

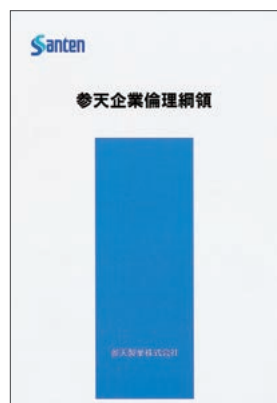


### 「参天企業倫理綱領」の配布

社会的良識をもって健全な事業活動を行い、企業市民としての義務と責任を果たすため、1999年12月、参天企業倫理綱領を制定しました。この中で、企業行動規範を定めており、社会・顧客・取引先・株主・社員との関わりの中で私たちが取るべき行動のガイドラインを示しています。

社員一人ひとりがこの基準を自分のものとし、共通の認識を持って企業活動を行えるよう、2003年9月の本綱領の改訂に合わせて、全社員に再配布しました。

**綱領の内容**  
 社長からのメッセージ  
 企業倫理綱領制定の背景  
 企業倫理綱領制定の目的  
 事業活動と企業倫理綱領  
 企業行動宣言  
 企業行動規範  
 推進体制と役割機能  
 相談・連絡先とヘルプライン



従業員との関わり

## 働きやすい職場づくりを行っています。

### 労働安全衛生への取り組み

参天製薬では、危険のない職場の実現を目指して、各職場で安全衛生・防災活動に取り組んでいます。すべての新入社員・中途入社員に対して安全衛生教育を実施しており、その他にも職種に応じてOJT（職場内訓練）で教育を行っています。これらの安全衛生活動・防災管理をより良く機能させるため、2005年度に労働安全衛生マネジメントシステムの運用開始を目指し、2004年2月よりシステムの構築を進めています。

2003年度の労働災害発生件数は、前年度より増加し、39件でした。通勤途中の交通事故が増えたことが原因です。



労働安全衛生マネジメントシステム構築キックオフ



### 障害者雇用の取り組み

働く意思と能力を持ちながら、働く機会に恵まれない方々に職場を提供し、自立した生活をサポートするために、1999年に滋賀工場敷地内に（株）クレールを設立しました。事業内容は主として参天製薬の製造部門で使用する作業着（無塵衣・無菌衣）のクリーニングです。これは一般クリーニングとは異なり、空気と水の管理を徹底し、作業着を無塵化、無菌化することを特徴としています。現在17名の社員がおり、年間約60万枚以上の作業着等のクリーニングを行っています。

5周年を迎えた2003年夏、記念式典を開催しました。懇親会ではクレールのメンバーが手話で歌を披露したり、普段の朝礼の様子を寸劇で再現したりと和やかな会になりました。参天製薬ではクレール社員の働きやすい環境作りや生きがいを発揮できる職場作りを全面的に支援していきます。



作業着のクリーニング

### 働きやすい職場環境の整備

#### 健康支援室

参天製薬では、全従業員が心身ともに健康で気持ちよく働けるように、職場環境の整備に努めています。「全従業員の健康に貢献！」との方針を掲げる健康支援室では、産業医1人と看護職5人で、種々の健康支援活動を実施しています。体の健康だけでなく、心の健康も支援しており、研修・相談・医療機関の紹介など、メンタルヘルス支援にも取り組んでいます。

#### 人権の尊重

事業活動を通して自律とゆとりと豊かさの充実を目指すため、お互いの人権と個性を尊重し、職場における差別を全面的に禁止しています。国籍・人種・皮膚の色、宗教、性別、性的傾向、年齢、学歴、家系、出身地、身体的障害、健康上の問題、地位、その他人権に関わる差別が発生しないよう、人事グループなどで研修を実施しています。

### 社外相談窓口を開設

2003年9月、コンプライアンスの社外相談窓口（ヘルプライン）を開設しました。社内にも、上司やコンプライアンスグループなどの相談先を設けていますが、社内で相談しにくい事柄に関しては、ヘルプラインを通して電話やeメールで社外の弁護士に直接相談することができます。

なお、相談者のプライバシーは全面的に保護され、相談者への不利益や職場での報復行為などが起きることのないよう、万全の配慮を行っています。

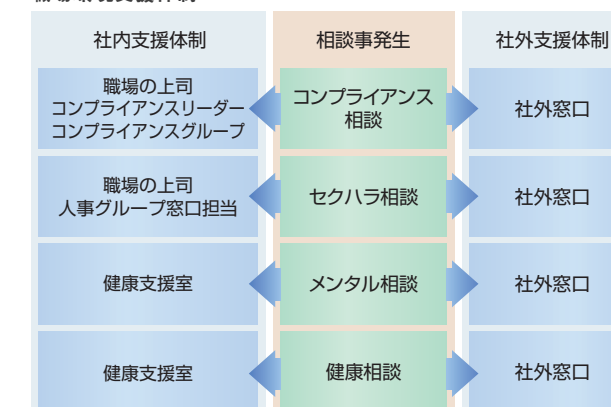
#### コンプライアンス研修実施状況

研修の種類	延べ人数	回数
新入社員研修	15名	1回
中途入社員研修	64名	9回
経営基幹職研修	166名	9回
派遣社員研修	94名	都度

#### セクシャルハラスメントの禁止

一般的に他人には相談しにくいセクハラ問題への取り組みにも力を入れています。セクハラは個人の尊厳を不当に傷付けたり、プライバシーを侵すなど人権を侵害する重大な問題ととらえ、セクハラ防止に関する仕組みづくりや情報提供を推進しています。社内にセクハラ相談専用のホットラインを設けており、2003年度からは新たにeメールでも相談が可能になりました。2003年11月には社外のセクハラ専門相談窓口も開設しました。

#### 職場環境支援体制



製品開発

## 安心で使いやすい製品の開発を進めています。

### 徹底した品質管理

人々の健康を支援する医薬品企業にとって、製品の品質について万全を期すのは当然であり、きわめて重要なことです。製品の品質は、法規制に適合していればそれで完璧というわけではありません。たとえ使用上は問題がない小さな不具合であっても、ユーザーの視点で見ると解消することが望ましいと考え、製品開発時には、製造設備・方法に関する厳しいチェックを行っています。

また各工場では、「患者さんに信頼される高品質で均質な医薬品を提供する」という方針のもと、世界水準の高い品質保証体制を確立しています。品質確保のために最新技術を導入しているほか、無菌作業や目視検査作業など高いスキルを必要とする作業については、独自の資格制度を設け、資格保持者が作業にあたることで、徹底した品質管理を行っています。



品質管理

### 包装の改善

2000年6月に起きた当社製品への異物混入脅迫事件※1を受け、当社では開封したことが一目でわかるように包装の改善を行いました。これは、透明フィルムで箱をシュリンク（熱収縮）ラッピングするもので、一度開封されるとフィルムがはがれることから、開封・未開封を簡単に区別することができます。

今後とも安全性と環境に配慮した包装材料の開発を進めていきます。



シュリンクラッピング

※1 脅迫文とともに異物を混入したと称する当社一般用目薬が郵送されてきた事件。脅迫文は、「金銭の要求に応じない場合は、当社製品に薬物を混入したものを店頭へ置く」という内容でした。当社ではお客様の安全を最優先に考え、店頭のすべての一般用目薬を回収しました。

### ユニバーサルデザインへの取り組み ディンプルボトルができるまで

2003年7月、新容器「ディンプルボトル」を用いた「ヒアレイン0.1」（角結膜上皮障害治療薬）の出荷が始まりました。これまでの容器には、キャップが開けにくい、容器を一周する紙ラベルのせいで残液量が確認しにくいなどの問題があり、患者さんの要望に沿った容器であるとは言えませんでした。容器をもっと改善したいとの思いから、1997年、新容器プロジェクト運営委員会が発足。顧客調査・改良を重ねた結果、ディンプルボトルを採用することに決定しました。

ディンプルボトルの大きな特徴の一つは、見やすさの向上です。容器本体の両サイドにスリット部分を設け、残液量が確認できるようになりました。また、製品名などの表示を従来よりも大きくし、キャップを色分けしてわかりやすくしました。もう一つの特徴は、使いやすさの向上です。キャップを大きくし、特殊なネジ構造の採用により、小さな力でも簡単に開けられるようになりました。ボトル部分については、容器の中央両側にディンプル（くぼみ）を設けることにより、持ちやすく、軽い力でも点眼ができるようになりました。

このユニバーサル・デザイン（UD）に対する姿勢が評価され、日経BP社発行の「日経デザイン」が2003年7月に行った調査「UD取り組み度ランキング」において、参天製薬は6位にランキングされました。今後も、参天製薬ならではのきめ細かな工夫や技術を製品に盛り込み、患者さんの視点に立った製品開発を進めていきます。



残液がわかりやすい 開けやすいキャップ さしやすいくぼみがあるボトル

### 容器包装の環境配慮

当社で生産する医薬品の外箱については、すべて再生紙を使用しています。また、自社製品の錠剤のPTPシートについては、塩ビの使用を中止し、焼却時にダイオキシンが発生しないプラスチックに切り替えています。

社会貢献活動・コミュニケーション

## 社会との関わりを大切にしています。

### 福祉団体への寄付・援助活動

事業活動以外でも広く社会に貢献していくため、参天製薬では、福祉団体などへの寄付や援助活動を行っています。米国に本拠を置く民間非営利組織（NPO）のヘレンケラー・インターナショナルへの寄付を十数年にわたり続けているのをはじめ、国内では、(財)日本眼球銀行協会や(財)日本失明予防協会への寄付を行っています。人々の目とからだの健康維持・増進のため、今後も、寄付や援助による貢献活動を継続していきます。

### 眼病治療への貢献

高齢社会の進行とともに、目の健康が社会的にクローズアップされています。参天製薬では、世界中の人々の「目の健康」を守ることが当社の社会的使命であると考え、眼病の治療に貢献するため支援活動を行っています。

中国では眼科医を対象とした「参天製薬眼科医奨学金制度」を設けています。この奨学金制度は14年間継続して行っており、優れた眼科医の養成をサポートしています。また、近隣のアジア諸国では、ベトナム失明予防プログラムへ医薬品の援助を行っています。

### 地域の清掃活動

地域の美化に貢献するため、定期的に清掃活動を行っています。滋賀工場では、毎年7月の「びわ湖の日」に行われる美化活動でびわ湖岸のごみ拾いに参加するほか、工場団地の清掃などにも積極的に参加しています。また、本社地区や能登工場でも環境ボランティア活動として事業所周辺の清掃を実施しています。地域清掃活動は延べ8回実施し、総勢185名が参加しました。



能登工場周辺の清掃



びわ湖岸でのごみ拾い

### 健康についての情報提供

眼科とリウマチ／骨・関節疾患領域に特化した医薬品企業として、持てる知識を社会に向けて積極的に発信していくことが重要だと考え、当社ホームページ上で、目の健康とリウマチに関する情報を提供しています。毎月更新の「ひとみすこやかマガジン」では、すこやかなひとみから広がる“ちょっと楽しい日常”を、広い視点から毎月タイムリーなテーマで提案しています。「目の健康」のページでは、目の病気や点眼液の正しい使い方などの情報をわかりやすく解説しています。

また、「リウマチについて」のページでは、リウマチ患者の方に向けた暮らしのアドバイスやリウマチ学についての情報提供を行っています。



ひとみすこやかマガジン  
<http://www.santen.co.jp/eyecare/index.shtml>

### コミュニケーション

当社の環境活動について広く一般の方々にもお伝えするため、2002年度より環境報告書を作成しています。また、同様の情報をWEB上でも公開しています。



環境報告書2002 環境報告書2003

### 編集後記

最後までお読みいただきありがとうございました。参天製薬では、2002年より毎年環境報告書を発行しています。今回の報告書では、社会的活動についても取り上げ、わかりやすく読みやすい報告書にするよう努めました。皆さまのご感想を、添付のアンケート用紙にてお聞かせいただければ幸いです。次回は2005年9月に発行する予定です。





連絡先

コンプライアンスグループ 環境・安全チーム

〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄三丁目9番19号

TEL.06-6321-9977 FAX.06-6328-5082

<http://www.santen.co.jp>

